

あ

あじさいと

清き水路の

丹生の里

古くから水銀の産地として栄えた丹生は、神宮寺の門前町でもあり、丹生千軒と言われるほどの大きな町であった。

い

古の家や炉の

縄文時代の

坂倉遺跡

東池上。県指定の史蹟「坂倉遺跡公園」として保存。縄文時代早期の住居跡や炉の跡が残る。

う

裏井戸で

西瓜を冷やそう

暑い日は

上牧の共同の水場。他にも町内にはしゅんど、じょうずなどと呼ばれる水場がある。

え

笑顔舞う

桜堤の

桜とともに

平成11年、佐奈川右岸、上朝長の堤防が整備され、桜づつみモデル事業により桜が植樹された。

お

大楠が

多気町ずっと

見守るよ

前村の大楠は紀勢本線と国道42号から見える旧道沿いにある。楠は旧多気町から引き続き町の木に選ばれた。

か

笠木御所

古井戸たくさん

館あと

中世の伊勢では国司北畠氏が権勢を振った。笠木の裏山に井戸跡や屋敷跡と思われる区画がいくつもあり、北畠氏縁の館跡と伝わる。

き

木の

トンネル

抜けると覆殿

千尋江神社

明治末の合併で茅広江村ができた時、下出江村の村社が新しい村社になり、千尋江神社と名が変わった。覆殿のおかげで江戸時代の社殿が良く保存されている。

く

櫛田川

清き流れに

鮎おどる

櫛田川の鮎は昔から有名で、相可の鹿水亭は特にアコ料理で知られていた。屋形船や川床もあり多くの文人や観光客を引きつけた。

け

元丈の

足湯談義に

花が咲き

幕府の御目見医師、野呂元丈の出身地波多瀬の「元丈の里」には「元丈の館」や葉草葉樹公園があり訪れる人が絶えない。本草学者でもあった元丈を記念した葉草の足湯もある。

こ

五桂の

池には

悲しい物語

五桂池は江戸時代、米作りの水を溜めるため、藩により造られた。立ち退かされた人々は志摩地方の相差や夏草、現町内の朝長等に移住した。今はふるさと村として動物園・ロッジ・おばあちゃんの店等を地域の人々が運営している。

れ

三民田 足田 四神田  
に五桂 五佐系  
条里制の  
名残りの地名

大化改新の後、国は人民に土地を分け与えて税を納めさせる。班田収授の法を実施。田滑に進めるため、条里制によって土地を区劃した。

し

沈み橋

大雨降ったら

沈んじゃう

増水時は水に浸かり流出を防ぐコンクリート製の橋。町内櫛田川には古江～下出江、牧～御味生園(松阪市)、波多瀬～深野(同市)間に計3ヶ所の沈み橋がある。沈下橋ともいう。

す

水銀で

奈良の大仏

つくったよ

奈良の都で749年に造立された東大寺大仏の鑄造には丹生採掘の水銀(伊勢水銀)が使われた。奈良時代から鎌倉時代頃まで盛んに採掘され、水銀座という組合まであった。

たきカルタ

読札 ①

あ～す

**と** 時をこえ  
熊野へ続く  
女鬼峠

伊勢参宮が盛んになった江戸時代。参宮の後、熊野に詣でるため熊野街道を行く人が多くなった。女鬼峠は成川・相鹿瀬間。最頂部にはお堂があり道中の安全を祈った。

**て** 天狗さん  
長龍神事の  
主役だよ

片野の八柱神社で行われる長龍神事は五穀豊穡を祈って春の大祭に奉納される。天狗が長龍を退治したという出雲神話を表現している。

**つ** 津留橋の  
下に見えてる  
はかり岩

伊勢本街道榎田川の津留の渡しは水量が川中のはかり岩を越えると川止めになり、参宮帰りの人々は宿に泊まって水が減るのを待った。宿場町津留はいつも賑わっていた。

**ち** 中世の  
城郭の跡篠山城  
咲くささゆりは  
町の花

南北朝時代、南朝の重臣、北畠氏が国司だった伊勢では戦乱が各地であった。五箇篠山城はこの頃築かれた。新多気町の花はささゆり。

**た** ただの崖  
でもそれ断層  
地球の歴史

中央構造線は西南日本を東西に走る大きな断層。多気町内の五桂や丹生の勢和・多気JCT付近などでは断層が地表に現れている。

**の** のびのびと  
走ろうパーク天啓  
で隣りは紅葉の  
旧法泉寺

天啓さん(法泉寺)に隣接するのびのびパーク天啓は芝生広場やゲートボール場、遊歩道などがある公園。

**ね** 願いこめ  
夜空にひらく  
みなびのまつり

朝柄のゆとりの丘で2013年から始まった花火大会。皆で花火から「みなびまつり」と名づけられた。8月開催

**ぬ** 抜けまいり  
相可の宿では  
草鞋の施行

江戸時代盛んになった伊勢参宮には約60年に一度のおかげ参りや抜け参りがあった。道中、食べ物や草鞋の施行(施し)があり、突然思い立っても無銭で参宮ができた。

**に** 丹生大師  
大きな門に  
仁王さん

丹生の神宮寺は弘法大師空海の師の勤操大徳が開き、空海が整備したと伝えられる。女性も参詣できる女人高野、お大師さんと親しまれてきた。

**な** 七色の  
菓子を お礼に  
歯痛地蔵

三足田の伊勢本街道沿いの小さなお堂には歯痛地蔵と呼ぶ石地蔵が祀られている。医者は庶民から縁遠く、歯の医者などなかった時代、歯痛は神仏に祈るしかなかった。

**な** 續えたつ  
十一面観音  
近取せん

長谷の近長谷寺は885年、飯高諸氏が創建したと伝えられている。同寺の丈6.6mもの十一面観音立像と秘伝白銀の「近長谷寺寶財帳」は国の重要文化財に指定されている。

**な** 勢和の漆  
トコト、バトクド  
駆け巡る

2013年、古江の勢和台スポーツセンターに作られたMTBのコース。

たきカルタ

読札 ②

せ～の

**は** 波多瀬なる  
樹齢 確かな  
山桜

明治36年、波多瀬小学校新築移転の際、生徒が山にあった山桜の幼木を植えた。町指定の天然記念物。

**ひ** 氷室あり  
冬の氷を  
夏食べた

相可には氷室という小字がある。昔、冬の氷を奥深い谷に穴を掘り保存した場所だと言われている。夏になると都や齋宮へ献上された。

**ふ** 仏足跡碑  
なでると足痛  
おさまるよ

鐵形の伊勢本街道沿いに釈迦の足跡が彫られた碑がある。足神さんと呼んで旅の安全や足痛が治るよう祈った。

**へ** 平和願う  
鎮魂碑建つ  
弓部山 重爆撃  
機墜落す

昭和20年5月、串川の奥の弓部山に重爆撃機が墜落した。米軍に占領された硫黄島への爆撃から帰還の途中だった。戦後慰霊の碑が建てられた。

**ほ** 砲術の  
技を磨いた  
土羽の里

紀州藩田丸城主久野純固は幕末、開港を迫る諸外国への海防の重要性を唱え、藩士に砲術を学ばせた。大砲を作り、土羽に練習場を設けた。今練習場跡には純固の碑が建つ。

**ま** まごの店  
高校生が  
腕みがく

平成17年、五桂池ふるさと村にできた高校生レストラン。土日だけ開店。相可高校食物調理科の生徒たちが運営している。TVドラマにもなった。

**み** 三重県の  
おへそにあるよ  
多気の町

平成18年(2006年)1月、勢和村と多気町が合併して現在の多気町になった。

**む** 村々をまと  
めた郷組 大庄屋  
勢州三領 紀州藩

紀州藩の伊勢の領地は松坂・田丸・白子。大庄屋が庄屋を統轄する郷組があり、当町の殆んどは西正田の大庄屋三谷家の西正田組と下出江組に含まれた。

**め** 恵まれし大地に  
伊勢いもタケノコ  
みかん 柿シイタケ  
にお茶畑

**も** 木綿屋定七  
友清は 不二孝信  
者で 万能の人

朝柄の岡山友清は江戸で商売に励み、帰郷後、葉種商や木綿屋、鉄砲屋などを営んだ。かたわら農事改良にも力をいれ伊勢錦を開発し、不二孝(道)の信者として人々に尽くした。

**や** 薬種商  
大きな看板  
金粒丸

江戸時代、参宮の旅人で賑わった伊勢本街道沿いにあった西池上太好庵の金粒丸は参宮土産として人気があった。今も当時の看板が残り、町文化財に指定されている。

**ゆ** 油田公園  
指は酒蔵  
並んでた

醸造業が盛んだった串川で酒造業を営んでいた油田家。戦後、当主油田篤太郎は県教育委員長に就任するなど教育文化に貢献した。現在寄贈された跡地は油田公園となっている。

**よ** 用水路 水  
有り難き 秋実る  
今も見つめる  
彦左衛門さん

江戸時代末の舟生の人、西村彦左衛門は串川に橋を造り、水路を舟生まで引く計画を立て実現させた。この立役り功績は今も農業や人々の生活を支えている。生家後の小公園には銅像が立つ。平成28年用水路として初めて国の国の登録記念物になった。

たきカルタ

読札 ③

は～よ

③

六角堂

登録された

郡役所

旧町役場敷地内にあった六角堂は大正天皇即位記念に多気郡役所の物産陳列所として建てられたものとみられる。役場が現庁舎へ移転の際、現在地へ移築された。2015年登録有形文化財に。

れ

曆師いた

賀茂杉大夫の

丹生曆

古くから朝廷が独占してきた曆が地方でも作られるようになった。丹生の賀茂杉大夫が作っていた丹生曆は伊勢曆ができるまで、伊勢神宮の御師が全国に土産として配っていたもの。

る

流浪の旅

西行法師が

千鳥ヶ瀬 足を休

めて歌を詠む

平安時代末期の僧西行は各地を旅し歌を詠んだ。伊勢本街道沿い相可高校前にある千鳥ヶ瀬は西行が千鳥の歌を詠んだことで名付けられた。

り

両郡橋

松阪・多気を

つなぐ橋

明治21年射和と相可の間に初めて木造の橋が架かった。多気郡と飯野郡を結ぶため両郡橋と名付けられた。現在の橋は3代目になる。

ら

蘭学の

基礎を築いた

野呂元丈

江戸時代中期、医学、本草学を学んでいた波多瀬の野呂元丈は幕府の薬草御用に始まり、御目見医師、寄合医師となった。將軍の命でオランダ語を学び、蘭学の祖と言われる。

ん

盆の夜

かんこ踊りは

五桂 五佐奈

読札

④

5~ん

ダウンロード用

ん

盆の夜

かんこ踊りは

五桂 五佐奈

伊勢地方では太鼓(羯鼓)を持って踊るかんこ踊りが盛んであった。当町の五桂と五佐奈では、火振り踊りと併せて今も盆の夜に行われる。

を

友好を

キヤマスの生

徒と深めあう

多気町へのシャープ三重工場進出をきっかけに関連事業所がある米国ワシントン州キヤマス市と姉妹都市提携を結んだ。国際交流基金を設け国際交流活動を行っている。

わ

わかれ道

道標見て

伊勢参り

伊勢本街道、熊野街道、和歌山別街道などの要路が通る多気町には道標のような石造物が数多くある。地元の人々は功德を願い参詣者のために道しるべや常夜灯を建てた。